

## 報 告

# プロバレーボールチームと育成チームとしての 大学バレーボール部との連携と成果について

The collaboration and outcomes between a professional volleyball team  
and a university volleyball department acting as a development team

山本 彩香<sup>\*1</sup>, 水野 秀一<sup>\*2</sup>, 薄木 悟<sup>\*3</sup>, 熊野 陽人<sup>\*2</sup>

**要約:** 本研究では、プロバレーボールチームであるヴィクトリーナ姫路の育成チームである、マックスバリュ・ヴィクトリーナや関西福祉大学女子バレーボール部と、ヴィクトリーナ姫路の育成組織から独立したヴィアーレ兵庫を対象にそれぞれのチームの取り組みについて調査し、それぞれのチームが連携することでどのような成果が得られているのかを明らかにした。その結果、同じヴィクトリーナ姫路の育成チームであるマックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学女子バレーボール部が連携したことで実業団チームと大学女子バレーボール部の強化ができ、それぞれの試合での結果に結びつけることができるという成果が出た。また、ヴィアーレ兵庫は独立したため、ヴィクトリーナ姫路の下部組織ではなくなったが、これまでの成果によって現在も大学生を実業団チームに派遣するなどの連携ができています。今後の課題としては、さらに大学の強化を図るために大学連盟での試合出場機会が少ないメンバーを実業団チームに派遣し、試合に出場できる機会を増やすこととスキルアップが必要であると考えた。そして関西福祉大学卒業後、ヴィアーレ兵庫に入団できる選手を増やしていきたいと考える。さらにはプロバレーボールチームであるヴィクトリーナ姫路に入団できる選手を輩出することが、これまでプロチームと育成チームが連携した最大の成果を実現できるのではないかと考える。

**Key Words:** バレーボール, プロバレーボールチーム, 育成チーム, 連携, 成果

### I. はじめに

「1964年東京五輪では女子チームが、1972年ミュンヘン五輪では男子チームが金メダルを獲得し、かつてバレーボールは日本のお家芸といわれた時代があった。しかしながら、高さとパワーに対抗するために日本が考案した速攻コンビネーションバレーや回転レシーブ等が世界各国へと普及したこと、ヨーロッパや南米でバレーボールが発展し始めたこと、強豪国選手の高身長化等の様々な要因が絡み合い、日本は世界から遅れを取ることとなった」(高松ほか, 2019)。しかし永野ほか(2020)の報告によれば、日本女子代表はその後のオリンピックにおける成績では、2000年のシドニー大会での最終予選敗退から、2004年アテネ大会、2008年の北京大会で

はいずれも5位に、2012年ロンドン大会では1988年のソウル五輪以来のベスト4進出を果たし、銅メダルを獲得した。2018年の世界選手権では6位、2022年の同大会でも5位という成績を収めている。一方男子代表は、1977年のワールドカップで銀メダルを獲得した後メダルから遠ざかっていたが、2000年以降アジア選手権では2005年、2009年、2015年、2017年において優勝しアジアの中では勝てるようになった。その後2022年のネーションズリーグでは5位、2023年の同大会では3位という成績を収め、46年ぶりに国際大会でメダルを獲得した。バレーボール日本代表が強くなった要因としては、JVAの一貫指導がうまく機能し始めたからだと考えられる。球技の団体種目の強化には一貫指導、すなわち「世界クラスの競技能力の開発を目指して、競技者の成長と発達に対応しながら、その可能性を最高度に開発するために、発掘、育成、強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づいて、それぞれの時期に最適な指導を行うこと」(久木留毅, 2009)が必要であり、「一貫指導を実施するために必要な資源・要素・条

2023年11月7日受付 / 2024年1月10日受理

\*<sup>1</sup> YAMAMOTO Ayaka

関西福祉大学大学院 社会福祉学研究科

\*<sup>2</sup> MIZUNO Shuichi

KUMANO Akihito

関西福祉大学 社会福祉学部

\*<sup>3</sup> USUKI Satoru

ヴィアーレ兵庫

件の仕組みおよびそれを活性化し、効果的に運営するための仕組み」(久木留毅, 2009), すなわち一貫指導システムの構築が有効な方策となる。「バレーボール女子日本代表において, 2001年に17歳で選出された大山加奈選手と栗原恵選手, 2002年に16歳で選出された木村沙織選手, 2004年に15歳で選出された狩野舞子選手などはJVAの一貫指導体制の中で育ってきた。また男子日本代表においても, 2014年に18歳で選出された石川祐希選手, 2018年に18歳で選出された西田有志選手, 2020年に18歳で選出された高橋藍選手などが該当する。彼らの活躍を見る限り, JVAの発掘育成に関してはうまく機能していると考えられる」(永野ほか, 2020)。永野ほか(2020)の報告によれば, JVAでは2001年に一貫指導委員会を発足し, 2004年に「ドリームマッチ」, 2009年に「エリートアカデミーオーディション」, 2010年に「全国中学生長身選手発掘合宿」を開始した。また竹川(2020)の報告によれば, 2014年にはProjectCOREを発足し, 高校生から大学生を対象に将来有望な選手を強化指定選手とした。こうした育成世代であるアンダーカテゴリーの成長がトップカテゴリーの強化につながっているのではないかと考えられる。そのような中, 高松ほか(2019)の報告によれば, 2016年に姫路市を拠点にプロバレーボールチームのヴィクトリーナ姫路が設立された。ヴィクトリーナ姫路は, 「1. バレーボール大国日本の復活に貢献する」, 「2. チームの価値を高め多くのファンに愛され自立した球団経営を行う」, 「3. バレーボールを生涯スポーツととらえ次世代育成を含む地域活性化に取り組む」といった方針を掲げて活動している。さらに2018年には一般社団法人ヴィクトリーナ・エリートアカデミーが育成チームとして「マックスバリュ・ヴィクトリーナ」とU23強化指定チームとして「関西福祉大学女子バレーボール部」を立ち上げた。JVAではアンダーカテゴリーを中心とした一貫指導に関する取り組みの事例は紹介されているが, ヴィクトリーナ姫路のように実業団チームや大学生の強化・育成についての事例を明確にするのは今後のバレー界において強化するための重要な資料となるのではないかと考える。

サッカー界では, サッカー界を牽引しているヨーロッパのユースチームを対象に「イングランドサッカー全体の構造とイングランドのユースシステムの概要について明らかにしている」(杉山ほか, 2020)。また「ドイツブンデスリーガ1部のチームの選手の出身ユースチームについて調べ, ドイツのユースアカデミー育成の質が向上

していることを明らかにしている」(杉山ほか, 2020)。そして杉山ほか(2020)の報告によれば, レアル・マドリードやバルセロナ, アスレティック・ビルバオ, マンチェスター・シティなどサッカー欧州4大リーグへの選手輩出からユースチーム育成が成功したモデルを明らかにしている研究があり, 日本ではこのようなクラブチームとユースチームの組織として一貫した育成について書かれた事例が見当たらない。

したがって, 本研究ではプロバレーボールチームと育成チーム, 育成チームとしての大学バレーボール部の取り組みについて調査し, それぞれが連携することでどのような成果が得られているのかを明らかにすることとした。

## II. 調査対象

### A. 関西福祉大学女子バレーボール部の概要

本研究の調査対象である関西福祉大学女子バレーボール部は, 2018年にヴィクトリーナ姫路のU23強化指定チームとして創部された。全国各地から選手が集まっており, 現在3社とスポンサー契約もしている。2018年に関西大学バレーボール連盟に加盟し, 7部から参戦したリーグ戦では無敗で昇格を続けた。コロナ禍により中止されたリーグを挟み, 2021年11月の関西大学バレーボール連盟秋季リーグ入替戦で勝利し, ストレートで1部昇格を取めた。また2021年には「部員全員が試合に出て活躍する」という目的のもと, クラブ連盟に所属する「関西福祉大学ウェルフェアリーズ(Welfare:福祉とFairy:妖精を組み合わせた造語)」チームを立ち上げた。毎年8月に開催される全日本6人制バレーボールクラブカップ女子選手権大会で優勝するという目標を掲げて活動しており, クラブカップ初出場の2022年と翌年の2023年の2年連続でクラブカップベスト8という成績を残している。その他にも中学生や小学生対象にバレーボール教室も積極的に開催している。(関西福祉大学, online1)

### B. マックスバリュ・ヴィクトリーナの概要

プロチームであるヴィクトリーナ姫路の育成チーム(実業団所属)である。2017年にマックスバリュ西日本株式会社と協働で, プロを目指す女子バレーボール選手の受け皿として設立された。選手たちはマックスバリュ西日本株式会社が新たに創設した「アスリート社員制度」によって入社し, 仕事をしながらトップチームで

活躍することを目標にしていた。また地域におけるバレーボールの裾野をさらに広げることも目的としていた。(ヴィクトリーナ姫路, online2)

### C. ヴィアーレ兵庫の概要

本研究の調査対象であるヴィアーレ兵庫は、2018年にヴィクトリーナ姫路の育成チームとして「マックスバリュ・ヴィクトリーナ」という名前で設立された。一般社団法人ヴィクトリーナ・アカデミーとマックスバリュ西日本株式会社の2社の連携で運営され、所属選手はアスリート社員制度を活用して正社員として働きながら活動している。2023年4月には実業団登録の「マックスバリュ・ヴィクトリーナ」を「ヴィアーレ兵庫」に名称変更し、活動内容を発展させるために活動拠点を兵庫県全域に広げた。「ヴィアーレ兵庫」を運営するヴィアーレ兵庫株式会社は、マックスバリュ西日本株式会社の働きながらプロバレーボール選手になる夢を応援する「アスリート社員制度」の意志はそのままに運営しており、100人まで選手登録が可能な県内最大規模のクラブチームとして、国内最高峰のリーグ「Vリーグ」参入を将来的に目指している。その他にも未来のバレーボール育成のために、全県下で部活指導(戦績重視)の活動に加えて、バレーボールやスポーツの楽しさを伝える活動も行っている。(ヴィクトリーナ姫路, online3)

## III. 調査の概要

### 1. 目的

プロバレーボールチームと育成チーム、育成チームとしての大学バレーボール部の取り組みについて調査し、それぞれが連携することでどのような成果が得られているのかを明らかにすることとした。

### 2. 方法

#### (1) 期間

##### ①連携の期間

連携の期間はヴィクトリーナ姫路の育成チームであるマックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学女子バレーボール部が始動した2018年4月から2023年の9月3日までとした。

##### ②調査期間

調査期間は、ヴィクトリーナ姫路が始動した2016年の4月から2023年の9月3日までとした。

### (2) 対象

プロバレーボールチームであるヴィクトリーナ姫路とその育成チームであるマックスバリュ・ヴィクトリーナ、関西福祉大学女子バレーボール部の連携について調査した。またマックスバリュ・ヴィクトリーナ独立後のヴィアーレ兵庫と関西福祉大学女子バレーボール部の連携について調査した。

## 3. 内容

ヴィクトリーナ姫路、マックスバリュ・ヴィクトリーナ、ヴィアーレ兵庫、関西福祉大学のそれぞれのチームの活動についてまとめた。また関西福祉大学女子バレーボール部から育成チーム等に選手が派遣された大会と出場人数をまとめた。そして大学生の出場人数や試合結果から同じ組織のチームが連携することで得られる成果を考察した。

## IV. 調査結果

### 1. 連携の実績

表1より各チームの活動歴をまとめた。現在V2リーグに所属しているヴィクトリーナ姫路は2016年に設立され、その後2018年に育成チームとしてマックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学女子バレーボール部(U23強化指定)が設立された。同じ下部組織であったため設立されてから早い段階で両チームの連携をスタートすることができた。主な取り組みは合同練習、練習試合、そして合同チームとしての大会参加であった。(公益財団法人日本バレーボール協会, online6)

マックスバリュ・ヴィクトリーナは育成選手からヴィクトリーナ姫路へのプロ選手昇格を目的に活動していたが、2023年にはVリーグ参入を目指すため「ヴィアーレ兵庫」に名称変更し独立した。(ヴィクトリーナ姫路, online4) ヴィクトリーナ姫路の下部組織ではなくなったが大学とヴィアーレ兵庫の連携は続いており、現在も連携を続けながら活動している。

### 2. その連携の成果

調査結果や表2をもとに、ヴィクトリーナ姫路の育成チームが連携することで得られた成果をまとめた。

#### ①チームの成績

マックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学が連携後、初の公式戦となった6人制クラブカップ兵庫県予選では3チーム中2位となり、全国大会の出場権は獲得

表1 チームごとの活動歴（ヴィクトリーナ姫路, online4）,（関西福祉大学, online5）

年・月	プロチーム	育成チーム	ヴィアール兵庫	関西福祉大学
2016.4	ヴィクトリーナ姫路設立			
2018.3	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 (以下、Vリーグ機構) V2リーグ参入決定			
2018.4		マックスバリュ・ヴィクトリーナ設立		・ヴィクトリーナ姫路と包括連携協定 ・大学強化指定クラブ
2018.6		初の公式試合 (関西福祉大学女子バレーボール部)と 合同チーム		
2018.10	第73回国民体育大会 5位			1名の学生が第73回国民体育大会出場
2019.2		第9回全国6人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会 出場 (関西福祉大学女子バレーボール部と合同チーム)		マックスバリュ・ヴィクトリーナに学生を派遣、 女子バレーボール部監督の水野秀一氏が マックスバリュ・ヴィクトリーナ監督を兼任
2019.3	V2リーグ優勝 V1リーグ昇格			
2019.4		マックスバリュ・姫路・ヴィアールに名称変更		
2019.7		第10回全国6人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会 準優勝		
2019.10	育成チームから2名の選手が入団	2名の選手がヴィクトリーナ姫路へ昇格		
2020.2		第10回全国6人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会 第4位		
2020.5		マックスバリュ・ヴィクトリーナに名称変更		
2020.10	育成チームから1名の選手が入団	1名の選手がヴィクトリーナ姫路へ昇格		
2021.4				株式会社姫路ヴィクトリーナから コーチが派遣される(業務委託)
2021.6		国民体育大会 兵庫県予選 準優勝		国民体育大会 兵庫県予選 優勝
2021.10	育成チームから2名の選手が入団	1名の選手がヴィクトリーナ姫路へ昇格		
2021.11				関西大学バレーボール連盟1部リーグ昇格
2021.4		関西福祉大学から1名の選手が入団		1名の学生がマックスバリュ・ヴィクトリーナに 入団
2022.1				ヴィクトリーナ姫路のホームゲームに招待 1名の学生が給球式に参加
2022.11				第70回秩父宮妃杯全日本バレーボール 次女子選手権大会 初出場
2023.4	V2リーグ降格	マックスバリュ・ヴィクトリーナから ヴィアール兵庫に名称変更	ヴィアール兵庫 設立	
2023.7			第12回全日本6人制バレーボール 実業団選抜男女優勝大会 準優勝	・第49回西日本バレーボール次女子選手権大会 ベスト8 ・ヴィアール兵庫に学生を派遣
2023.9			第65回 近畿6人制バレーボール総合 男子・女子選手権大会 出場	・第65回 近畿6人制バレーボール総合 男子・女子選手権大会 出場 ・ヴィアール兵庫に学生を派遣

表2 マックスバリュ・ヴィクトリーナ、ヴィアール兵庫の大会成績・大学生派遣人数（大学で主力/控え）と入団人数

チーム名	年度	日程	大会名	成績	大学生人数（主力/控え）	関西福祉大学卒・入団人数（名）	
マックスバリュ・ヴィクトリーナ	2018年度	6月17日	クラブカップ兵庫県予選	2位	6名（5/1）	0名	
		2月9日～3月10日	第9回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会	5位（5勝4敗）	5名（5/0）		
	2019年度	試合出場機会なし					
	2020年度	コロナウイルスの影響で試合出場機会なし					
	2021年度	6月20日	国民体育大会 兵庫県予選	準優勝	1名（0/1）		
		7月10日～7月11日	第11回全日本6人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会	4位	4名（4/0）		
		3月26日～3月27日	第12回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会	3位	1名（0/1）		
	2022年度	10月1日	天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 近畿ブロックラウンド	B組決勝敗退	2名（2/0）	1名	
		2月4日、5日・2月18日、19日	第13回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会	西部決勝リーグ敗退（1勝3敗）	3名（2/1）		
	ヴィアール兵庫	2023年度	7月1日～7月2日	第12回全日本6人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会	準優勝	4名（0/4）	
9月3日			第65回 近畿6人制バレーボール総合男子・女子選手権大会	2回戦敗退	3名（0/3）		

することができなかったがチーム初勝利となった。そして次に出場した全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会では、関西福祉大学女子バレーボール部監督の水野秀一氏がマックスバリュ・ヴィクトリーナの監督を務め、実業団連盟に加盟している強豪チームが集まる中、5勝4敗の5位という結果を取めることができた。

2021年度マックスバリュ・ヴィクトリーナは最初に出場した大会である国民体育大会兵庫県予選で準優勝し、派遣された大学生もこの結果に大きく貢献した。また関西福祉大学も出場し優勝という結果を取めることができた。11月には関西福祉大学は関西大学バレーボール連盟1部に昇格した。（2018年7部からのスタート）

2022年度は大学の主力メンバーがマックスバリュ・ヴィクトリーナに派遣され試合に出場し、2年連続で全日本6人制バレーボール総合男女優勝大会に出場した。

2023年度は全日本6人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会に出場した。他の強豪の実業団チームが集まる中、準優勝という結果を取めることができた。9月3日にはVリーグ所属チームや大学生、高校生が集まる近畿6人制バレーボール総合男子・女子選手権大会に出場し1回戦を突破したが、2回戦は帝塚山大学にフルセットで敗れ2回戦敗退となった。

#### ②プロ（育成選手）になった人数

2019年10月に2名の選手がヴィクトリーナ姫路に昇格した。その翌年の2020年も2名の選手がヴィクトリーナ姫路に昇格した。また2022年度は関西福祉大学から1名がマックスバリュ・ヴィクトリーナへ入団することになり、同じヴィクトリーナの下部組織として初の入団選手となった。その他にもV2リーグ所属チームやマックスバリュ・ヴィクトリーナと同じ実業団連盟に所属しているチームに選手を送ることができた。

#### ③スキル向上等

関西福祉大学女子バレーボール部の一期生はまだ経験

の浅い選手たちだったが、実業団チームとの合同練習や実業団チームとの試合を通してスキルアップを図ることができた。同じヴィクトリーナ姫路の育成チームとしてマックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学が連携を続けることでお互いを強化することができ、高さとパワーを中心とした攻撃力のあるチームに強化することができた。また大学が強化されていくことで、身長が高く、能力の高い選手の入部が毎年多くなった。そして関西福祉大学は2018年から活動し、関西7部リーグからスタートしたが、そこから一度も負けることなく2021年11月に関西大学バレーボール連盟1部に昇格した。2022年には創部初の秩父宮妃杯全日本バレーボール大学女子選手権大会に出場し、2023年現在も関西学生リーグ1部に所属しており（関西福祉大学、online5）、関西でもトップレベルの実力を身につけることができた。

#### V. 考察

まずプロチームであるヴィクトリーナ姫路が創立され、その後育成チームとして「マックスバリュ・ヴィクトリーナ」とU23強化指定チームとして「関西福祉大学女子バレーボール部」を立ち上げたことで実業団チームと大学女子バレーボール部の連携ができるようになったと考える。2018年から2022年は関西福祉大学の主力メンバーがマックスバリュ・ヴィクトリーナの一員として試合に出場しており、実業団チームでの経験が大学でもトップレベルで活躍する選手への成長に繋がっている。マックスバリュ・ヴィクトリーナと関西福祉大学が試合での実績を取めることで2つのチームの技術の高さが窺え、両チームが連携するメリットが現れているのではないかと考える。

また2022年度は関西福祉大学から1名がマックスバリュ・ヴィクトリーナへ入団することになり、同じヴィクトリーナ姫路の下部組織として初の入団選手となった

が、これは日頃の合同練習や練習試合を通して大学生のプレーを頻繁に見てもらえる機会ができたことが入団への道に繋がり、これは両チームが連携する大きな成果になったのではないかと考える。

2023年は主に大学での控えメンバーがヴィアーレ兵庫の一員として試合に出場する機会が多くなったが、大学ではあまり試合出場機会がない学生たちにとってはとてもいい経験になったのではないかと考える。また実業団選手のプレーを間近で見て学び、学生自身のスキルアップが図れたのではないかと考える。大学では控えメンバーの学生たちが活躍することは大学生の選手層を厚くすることにもつながり良い変化が見られた。このように継続して大学女子バレーボール部から学生が派遣され、実業団チームの一員として全国大会などの出場機会があることは2つのチームが連携することによって生まれる大きな成果であると考え。また普段かかわることのない大学と実業団の2つのカテゴリーのチームがバレーボールを通してかかわるといふ貴重なつながりができているのではないかと考える。

## VI. 今後の課題

今回女子プロバレーボールチームであるヴィクトリーナ姫路や育成チームに着目し、それぞれのチームの取り組みについて、また育成チームの連携が始まったことで得た成果について調査した。同じヴィクトリーナ姫路の育成チームが連携したことで実業団チームと大学女子バレーボール部の強化ができ、それぞれの試合での結果に結びつけることができるという成果が出た。ヴィアーレ兵庫が独立し、ヴィクトリーナ姫路の下部組織ではなくなったが、これまでの成果によって現在も連携することができている。しかし大学の主力メンバーは大学連盟でも試合の出場機会があるため、さらに大学の強化を図るためには大学の控えメンバーとヴィアーレ兵庫が連携できる機会をもう少し多く作り、大学生の試合出場機会を増やすこととスキルアップに繋げることが必要であると考え。そして関西福祉大学卒業後、ヴィアーレ兵庫に入団している卒業生は現在1名なので、今後ヴィアーレ兵庫に入団できる選手育成をして入団人数を増やしていくことが今後の課題である。さらに言えば大学卒業後、またはヴィアーレ兵庫からヴィクトリーナ姫路に入団できる選手を輩出することが、これまでプロチームと育成チームが連携した最大の成果となるのではないかと考える。

## 引用・参考文献

- 高松祥平・青山将己・久保雄一郎・但尾 哲哉 (2019) プロスポーツ組織の成長プロセスとステークホルダー・マネジメント：わが国初の女子プロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」に着目して。体育学研究, 64 : 825-839.
- 永野翔大・中西康己・曾田宏 (2020) 日本バレーボール協会における一貫指導システム構築の推進要員に関する事例研究－発掘育成に着目して－。コーチング学研究, 34 (1) : 61-71.
- 岡部修一 (2011) 日本バレーボール界の変遷 (1)－トップレベルのリーグ40年の変遷について－。奈良産業大学紀要, 27 : 157-167.
- 久木留毅 (2009) スポーツ政策における一考察：日本のエリートスポーツにおける一貫指導システムの問題と課題。専修大学社会体育研究所所報, 57 : 27-36.
- 竹川智樹 (2020) バレーボール日本代表男子 U23・U21 チームにおける育成と強化びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 17:93-95.
- 内藤翔平・入口豊・井上功一・中野尊志・大西史晃 (2013) イングランドサッカークラブにおけるユース育成について (I)－イングランドのユース育成システム－。大阪教育大学紀要, 61 (2) : 11-24.
- 杉山卓也・中村武彦・西井良・菅沼柁希・宅野信輔・千葉裕花・増田百恵・三井玲奈 (2020) サッカー欧州4大リーグへの選手輩出からユースチームの成功モデルを探る。スポーツ産業学研究, 30 (1) : 31-40.
- 関西福祉大学(online1)【女子バレーボール部】悲願の1部昇格！！2018年リーグ参戦から無敗で達成！ <https://www.kusw.ac.jp/action/2021/11/18377.html>, (参照日 2023年10月31日)
- ヴィクトリーナ姫路 (online2) マックスバリュ・ヴィクトリーナの選手・スタッフ情報を更新, <https://www.victorina-vc.jp/information/mvc-info/20220606-01/>, (参照日 2023年10月31日).
- ヴィクトリーナ姫路 (online3) 「マックスバリュ・ヴィクトリーナ」から「ヴィアーレ兵庫」へ, <https://www.victorina-vc.jp/information/mvc-info/20230401-01/>, (参照日 2023年10月31日).
- ヴィクトリーナ姫路 (online4) ニュース, <https://www.victorina-vc.jp/information/>, (参照日 2023年10月31日).
- 関西福祉大学 (online5) 女子バレーボール部 お知らせ, [https://www.kusw.ac.jp/wvb\\_news](https://www.kusw.ac.jp/wvb_news),

(参照日 2023 年 10 月 31 日).

公益財団法人日本バレーボール協会 (online6) 国内大会 - トピッ

クス, [https://www.jva.or.jp/topics\\_cat/domestic/](https://www.jva.or.jp/topics_cat/domestic/),

(参照日 2023 年 10 月 31 日).